

Rothschild-12 フランス革命

フリーメイソン大東社のグラントマスターであった、ド・オルレアン公爵は、ルイ 14 世王の弟の家系に属する公爵であります。恐ろしいまでの陰謀を企てて、ブルボン家を滅ぼしてルイ 16 世の王位を奪おうという野心を持っていたので、フランス革命は彼にとって絶好の機会でありました。このオルレアン公を利用しようと目をつけ、彼に接近したのが、イルミナティのアダム・ヴァイスハウプトで、女を使い快楽に溺れさせ、1780 年になると、オルレアン公爵は、ユダヤ人金貸し業者に 80 万ルーブルの借金を負わされます。ちなみに、アダム・ヴァイスハウプトは、当時義理妹の中絶手術費用の工面に四苦八苦ししながら極貧の生活を送っていましたが、ロスチャルド財閥の祖、マイヤー・アムシェル・ロスチャイルドから資金提供を受けており、フランス革命では数百万フランの資金提供を受け、約 3 万人の革命分子を雇った事も記録に残されています。

1789 年 7 月、弁護士カミーユ・デムーランは民衆に向かい「武器をとれ！」と煽動し、フランス革命の最初のデモ行進はこのパレ・ロワイヤルから始まりました。その翌日に絶対王政の象徴であった監獄バスチユ襲撃事件が起こり、フランス革命へと発展。あろう事か、同じ親族であるルイ 16 世の処刑投票に、彼は平然と賛成票を投じ、ルイ 16 世は処刑されました。イルミナティに、十分に利用されたオルレアン公爵は 1793 年 11 月 6 日、ルイ 16 世に遅れること 10 ヶ月、マリー・アントワネットの処刑から 1 ヶ月もたたないうちに、彼も処刑されてしまいました。彼の子供が、七月王政のルイ・フィリップであります。

ちなみに、このフランス革命では、ロスチャイルド家が、モーゼス・モンティフィオーレ卿の伯父に当たるモーゼス・モカッタの銀行を介して、フランス革命への資金提供を行っていた証拠が存在しており、歴史記録書によればフランス革命の主な資金提供者は、ダニエル・イツィツヒ、デヴィッド・フリートレンダー、ヘルツ・ガリビール、ベンジャミン・ゴールド・シュミット、及びアブラハム・ゴールドシュミットといったユダヤ系銀行家たちであったとされています。

実際、フランス革命は、イルミナティに乗っ取られたフリーメイソンが主体となって起こしたものと考えられ、革命後に独裁・恐怖政治を行ったジャコバン党の実体は、イルミナティでした。ですから実際、バスチユ広場の周辺には、ユダヤのシナゴーク（教会）だらけなのです。フリーメイソンのスローガンは「自由・平等・博愛」、フランス革命のスローガンも同じく「自由・平等・博愛」。

イルミナティが 1789 年の血塗られたフランス革命で、重要な役割を果たしていた事は一般の認められるところであり、この組織がユダヤ人によって創られた事は周知のことで、ロスチャイルド家はじめのユダヤ人の金で運営されました。はっきり言えば、フランス革命はユダヤ人が引き起こし、これを機にユダヤ人は、一般市民生活上での差別から自らを解放したといえます。

ここまで証拠資料を提供しても、フランス革命において、フリーメイソン/イルミナティ（フリーメイソンは啓蒙思想の落し子であったが、悪のイルミナティに乗っ取られた）の関与について、まだ懐疑的な方のために、決定的な資料を提供しましょう。

1904 年に、フランス革命に関して開催されたフランス下院の議論ですが、フランス革命はフランスのフリーメイソンによって引き起こされた証拠づける議論を検証した後、ロサンブ侯爵の発言です。「これで、革命を生じさせたのは、フリーメイソンに他ならないと、私達は完全の意見の一致を見ました。ですが、珍しい事に左派陣営からも拍手を頂戴しました。ということは、フランス革命はフリーメイソンによって引き起こされたとする私の意見は満場一致で認められた訳ですね。」

この発言に対して、大東社の有名なフリーメイソン、M・ジュメルの発言は、「認めるどころか、・・・我々はそう主張する。」